（３）九鬼・早田地域　① 九鬼地区

１）地域の概況

◆ 位置・環境

・九鬼地区は、熊野灘のリアス式海岸の入り組んだ入江に位置しており、江戸時代から回船などの寄港地として利用されてきたところです。

・集落の西端にＪＲ九鬼駅があり、その西側に国道 311 号が通っています。

・集落内を九木漁港に面して県道九鬼港線が通り、東端の九木神社に至っています。

・集落は、漁業集落特有の狭い階段状の通路等で構成されており、にらくら祭りの祭事場や真厳寺等の歴史文化資源も見られます。

九木漁港

九鬼の集落

◆ 歴史文化

九木浦は、平安時代から中世にかけて山岳信仰を奉じる修験者により、新宮から市木（一鬼）・木本・二木島・三木里など木の地名が続くなかで、九番目に開かれた修験道を意味しているのではないかと言われています。

江戸期に入ると九木港は、水深が深く、九木神社の岬によって荒波を防いでいるため、薪や水の補給、日和待ち・風待ち・汐待ちなど、熊野灘きっての良港として、御城米船だけでなく一般の千石船も多く入港しました。

九木神社

真巌寺

また、商業港であると同時に有数の漁港でもあり、宝暦４年（1754 年）から始まった紀州藩営の捕鯨は、宝暦年間は好成績をあげましたが、明和になって不漁となり、同７年（1770 年）には鯨方役所が閉鎖されました。

九木浦にとって大切な漁業に鰤漁があり、明治・大正・昭和と好調を保ち、日本三大鰤漁場の一といわれましたが、現在では、鰤の水揚げ高も下降線をたどっています。

なお、九木浦には有名な九鬼家があります。南北朝時代の中頃、佐倉中将藤原隆信公が四日市から九木浦に移住、九鬼姓に改め、これ以降安土桃山時代に開花する九鬼水軍を養成することになります。

◆ 土地利用

・九鬼地区は都市計画区域外にあり、九木神社樹叢周辺が自然公園特別地域（第２種）、また東部の九木崎にかけて同普通地域、第２～３種及び特別保護地区に指定されています。
・集落は、九木漁港に面して大きく蛇行する県道九鬼港線に接し、北側の斜面に狭い階段状の通路等でつながれています。
・農地はほとんどみられず、集落の背後は山林となっており登山道もあります。
・ＪＲ九鬼駅前の未利用地は、現在、活用が進められていますが、更なる有効活用が望まれています。

JR 九鬼駅周辺

◆ 都市基盤

・九鬼地区の主要道路は、国道 311 号と県道九鬼港線で、県道九鬼港線は、海岸部と集落の間を通っています。
・ＪＲ九鬼駅が立地しています。
・集落の北西部には健康とゆとりの森があります。

◆ 産業

・地場産業である漁業は、近年の漁獲高の減少に伴い、新たな展開が求められています。

２）地域（まち）の将来像

**九鬼の歴史伝統文化の再生と地場産業の新たな展開による
快適に暮らせるまちづくり**

九鬼水軍をはじめとする歴史伝統文化の蓄積された本地区の再生とともに、雇用の場の促進につながる漁業等の地場産業の新しい展開による活気ある、誰もが快適に暮らせるまちづくりを推進します。

３）地域のまちづくり方針

◆ まちづくりの柱　１

新たな地場産業の展開と交流の場づくり

雇用の場の促進につながる地場産業である漁業の新たな展開とともに、観光も視野に入れた海産物などを提供（販売等）できる交流の場づくりを進めます。

◆ プロジェクトの方向

・観光客等が滞留するための交流の場づくり
・雇用の促進につながる地場産業の振興

◆ まちづくりの柱　２

ＪＲ九鬼駅周辺などの未利用地や遊休施設の有効活用

ＪＲ九鬼駅周辺の未利用地を観光や産業施設の誘導等を含めた検討を行うとともに、公共施設などの有効活用を図ります。

◆ プロジェクトの方向

・ＪＲ九鬼駅周辺の未利用地の利活用の検討
・公共施設の有効活用の検討

◆ まちづくりの柱　３

歴史的な漁業集落空間のまちなか観光資源としての活用

九鬼地区に残る歴史伝統文化とともに、石畳みなどの特色ある漁業集落空間を観光資源として活用し、観光客等の流入を図ります。

◆ プロジェクトの方向

・九木神社、魚見小屋などの歴史的環境の観光活用

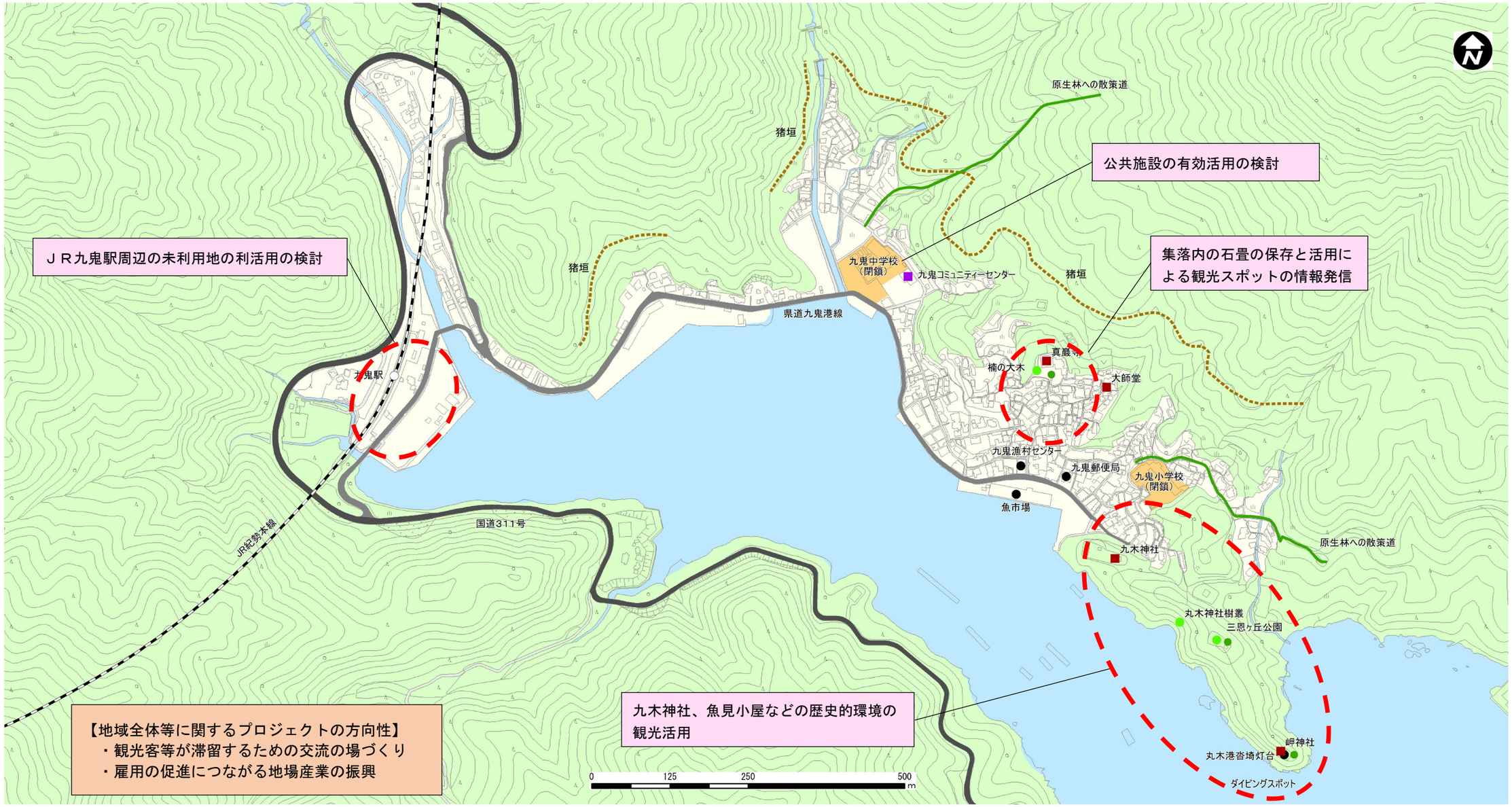
・集落内の石畳の保存と活用による観光スポットの情報発信

◆ 九 鬼 ・ 早 田 地 域　〇 九鬼地区　のまちづくり方針

地域（まち）の将来像	九鬼の歴史伝統文化の再生と地場産業の新たな展開による快適に暮らせるまちづくり

地域づくりの方針			
まちづくりの柱　１	新たな地場産業の展開と交流の場づくり	まちづくりの柱　２	ＪＲ九鬼駅周辺などの未利用地や遊休施設の有効活用
まちづくりの柱　３	歴史的な漁業集落空間のまちなか観光資源としての活用		

プロジェクトの方向



（３）九鬼・早田地域　② 早田地区

１）地域の概況

◆ 位置・環境

・早田地区は、熊野灘のリアス式海岸の入江にあり、南東に開く小さい入江の北側が明神崎、南側が橋掛崎です。

・入江から北西につながる谷間に張り付くように、漁業集落を形成しています。かつては、大型回船も寄港した利便性の高い港でした。

・現在は、国道 311 号から市道によりつながれています。

早田漁港

◆ 歴史文化

かつては８軒の船宿があり、今も宿をしていた家の墓地には、船乗り、廻船問屋主人の墓が在り、また大型回船を造った記録が残るなど、大型回船が寄港する良港として栄えたことが窺えます。

早田は、天然の良港で海の幸に恵まれた港であり、次第に人口も増え、住民は主として漁業に従事したとされています。また、潮岬や大王崎で強風により流された船が早田浦へ入港してくる場合が多かったようです。

江戸中期には、尾鷲や九木浦の漁師たちが漁業指導に行ったり、年季奉公に出かけるなか、早田からは一人も出稼ぎに行く人がなかったり、縄文土器をはじめ平安、鎌倉期土器類が発見されていることなどから、温暖で暮らしやすい居住環境であったことがうかがえます。

◆ 土地利用

・早田地区は都市計画区域外にあり、半島部は自然公園特別地域（第１～３種）、早田漁港沿岸部は同公園普通地域となっています。

・集落は小さな谷あいの斜面地に位置する漁業集落であり、このため狭小道路の急斜面に木造家屋が密集しています。

・集落地の前面は早田漁港で、谷間の地形に沿って北西側の谷沿いには、住宅地や旧早田小学校跡地のほか、狭小な斜面農地などがみられます。

早田のまち並み

◆ 都市基盤

・早田地区内の主要道路は、市道のみであり、国道 311 号とつながっています。

・旧早田小学校跡地はアプローチ道路が整備され、消防団車庫が建設されましたが、今後は、空き地部分の利活用が望まれています。

・早田漁港の南には、あなじゃ公園があり、集落の北東部には茜の森が立地しています。

早田神社

◆ 産業

・地場産業は、江戸時代には大型回船が寄港する港として栄え、また海上交通が安定すると杉やひのきの植林が進み、建築用材として回船により運ばれ江戸方面で利用されるなど、林業で栄えた記録も残るものの、現在は漁業が中心となっています。

・九鬼との境界近くに漁場があり、大型定置網を中心とした漁業が行われています。

旧早田小学校跡地

２）地域（まち）の将来像

美しい自然と地域の豊富な海の幸を活用した快適に暮らせるまちづくり

かつては大型回船が寄港する港として栄えた天然の良港としての地形的特性や、現在も行われている定置網漁や、周辺の山々などの豊かな自然環境等を活用し、地場産業を体験観光に活かした、誰もが快適に暮らせるまちづくりを進めます。

３）地域のまちづくり方針

◆ まちづくりの柱　１

海や森の資源を活かした観光交流の場づくり

天然の良港に恵まれた地形的特性や定置網漁業等の体験型観光、茜の森の自然資源を活かした、観光交流の場づくりを進めます。

◆ プロジェクトの方向

・早田漁港の地形的特性を活かした観光交流の推進
・茜の森の利活用の検討
・地区及び地場産業の活性化の促進
・釣りスポットの維持管理の検討

◆ まちづくりの柱　２

空き家の活用による漁業集落の維持

集落内の空き家を新たな漁業従事者や移住者の住宅として活用するとともに、新規住民との良好な関係による集落のコミュニティの維持を図ります。

◆ プロジェクトの方向

・空き家を漁業従事者や移住者の住宅として活用

◆ まちづくりの柱　３

公共施設の活用による安全安心なまちづくり

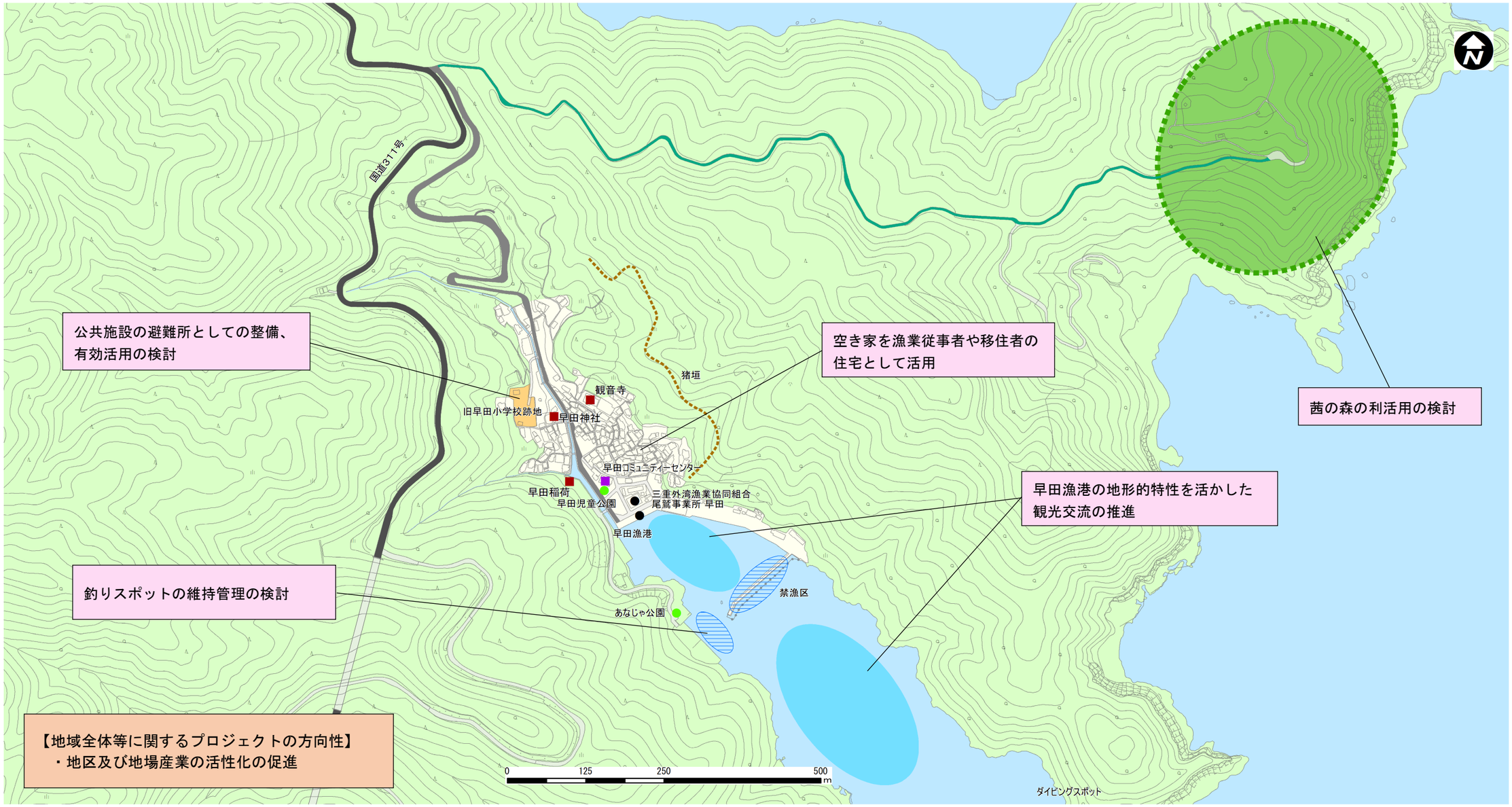
地区内の公共施設の避難所としての整備、有効活用を図ります。

◆ プロジェクトの方向

・公共施設の避難所としての整備、有効活用の検討

◆ 九 鬼 ・ 早 田 地 域　○ 早田地区　のまちづくり方針

地域（まち）の将来像	美しい自然と地域の豊富な海の幸を活用した快適に暮らせるまちづくり

地域づくりの方針			
まちづくりの柱　１	海や森の資源を活かした観光交流の場づくり	まちづくりの柱　２	空き家の活用による漁業集落の維持
まちづくりの柱　３	公共施設の活用による安全安心なまちづくり		

プロジェクトの方向